

Received: 12 April 2021 | Revised: 8 October 2021 | Accepted: 7 January 2022

DOI: 10.1111/joor.13306

REVIEW

JOURNAL OF ORAL
REHABILITATION

WILEY

What is the nocebo effect and does it apply to dentistry?—A narrative review

Takeshi Watanabe^{1,2} | Mette Sieg¹ | Sigrid Juhl Lunde¹ | Pankaj Taneja^{3,5,6} |
Lene Baad-Hansen^{4,5,6} | Maria Pigg^{5,6,7} | Lene Vase¹

Journal of Oral Rehabilitation 49(5) 586-591 より抜粋

ノセボ効果とは何か？ 歯科領域への応用は可能か？

徳島大学大学院医歯薬学研究部予防医学分野 助教 渡邊 毅



ノセボ効果とは、患者の治療に対する負の予測から生じる治療効果の抑制、症状の悪化、副作用の発生などのことを言う。近年ノセボ効果に関する研究は多くの医療分野において増えてきているが、歯科領域においてはほとんど注目されていない。本総説はまず、ノセボ現象に関する重要な研究、特に痛みや薬の使用に関するものについての研究を要約している。続いて、歯科領域におけるノセボ現象や類似した現象に関する報告の概要が述べられている。本総説で参照した文献は、PubMedで関連キーワードを用いて検索したものに加え、プラセボ/ノセボ研究者と歯科医療研究者がそれぞれの分野での重要な参考文献を追加して集められた。これらの文献を参照した結果、歯科医療におけるノセボ効果に関する研究はまだ限定的ではあるが、恐怖、不安などのノセボ効果に関連した現象が歯科臨床において影響を与えている可能性が大きいと考えられた。今回の総説でとりあげた現在までの数少ない証拠からも、歯科領域においてノセボ効果を研究することの重要性が示唆されている。本総説の最後には、以下のような歯科領域におけるノセボ効果の研究の方法についても示している。まずは、他の医療分野においても行われているように、歯科分野におけるランダム化比較試験のプラセボ群での副作用の発生に注目した系統的レビュー、メタ解析を行うことである。このような系統的レビュー、メタ解析は、歯科領域における

ノセボ効果の影響を理解する上で必要となる。さらに、歯科臨床の環境を模した高品質な実験的研究も、患者の不安や予測が、治療効果や副作用に与える影響の大きさを理解する上で有用であると考えられる。これらの研究を行っていくことが、ノセボ効果の歯科領域における影響を明らかにし、さらには、どうすれば歯科臨床においてノセボ効果を減らすことにつながるかを考える上でのヒントの提供につながると思われる。

◆◆◆ 略 歴 ◆◆◆

- 2004年 開成高等学校卒業
- 2008年 一橋大学経済学部経済学科卒業
- 2008年 東京医科歯科大学歯学部歯学科3年次学士編入学
- 2014年 東京医科歯科大学医歯学総合研究科(DDS-PhDコース)単位取得退学(2011年-2013年 JSPS特別研究員DC2, 2018年博士(歯学))
- 2016年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
- 2016-2017年
東京医科歯科大学歯学部附属病院 歯科臨床研修医
- 2017-2018年
東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科心身医療外来医員
- 2018-2020年 同上 特任助教
- 2020年-2021年
オーフス大学心理行動科学部 Visiting Researcher
(上原記念生命科学財団リサーチフェロシップ)